

福島へ! 3.11 東日本大災害 福島を肌で感じるツアー

NPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会 小関理

あの堤防は何だ・・・、今回の感想はその一言に尽きます。海が見えない、被災した海岸(毎年同じ場所を訪問しています)に立つと海を観ることができない。相当不安になります。



それが延々と続くのです。これまで毎回訪れた相馬海岸では、津波に持って行かれて土台だけになった場所からの眺めには、何か居心地の悪い“不安感”がありました。石巻在住の被災者に聞いても“堤防”に関する感想は同じものでした。誰のための堤防なのか?そんな疑問が大きくなってきます。丘の上、堤防の上から見た海は穏やかでした。



飯館村付近の放射性廃棄物の山

飯館村に入ると、放射性廃棄物の入った黒い入れ物の山が続くことになります。これでもかと言うぐらい続きます。8000ベクレル/kgを超える廃棄物のはずです。黒い大きなビニール袋の山を観ているとホントに気が滅入ってきます。

吉沢牧場では除染をしていました。飢え死にした牛の写真を見ると、救助を待ったまま亡くなった人を思い出す。原発って何なんだろうと考えざるを得ません。



昨年ここは、通行止めだった。



2012年、10 m Sv/h を超えていた。

小高駅は綺麗になっていました。4年間放置されていた無数の自転車は撤去され、通勤・通学に使われている数台の自転車がごちゃまじりとおかれておりました。目立つインフラは整えたけれども、列車は通ったけれども・・・ということになれば良いなと思いました。駅前の商店に“ドキュメンタリー映画「知事抹殺」の真実”上映のチラシがおかれていました。福島の知人の一人は「佐藤栄佐久が知事であったなら、フクイチの事故は起きなかったかもしれない」と言っておりました。



旧山下駅でのイベント



日和山から関上港を望む、手前には住宅地、向こうには、サイクルセンターと老人ホームがあった。

旧山下駅では追悼モニュメント除幕のイベント準備が行われておりました。若い人たちが集まって働いておりました。線路があったろうと、かろうじてわかる所です。是非このまま残って欲しい場所ではあります。

新しい山下駅にはショッピングモールがあり、親子連れやお年寄りがお茶のみをしておりました。廻りには新しい住宅が建っておりました。「チョット違うな」という感じがしました。

3月11日、関上の日和山ではイベントが行われていました。遙か上に津波到達の目印があった水門は消えてしまい、高い堤防がありました。

定点観測的被災地ツアーは、いろいろなことを教えてくれます。